

開業から 112 年が経つ東武伊勢崎線。沿線の業平橋・押上地区には 2012 年春開業予定の「東京スカイツリー」が建設され、既に 634m までの建造が終了。開業前にも関わらず多くの観光客で賑わっている。

そんな東武伊勢崎線をはじめとする日光線・東上線で活躍する東武鉄道の主力車両、10000 系・30000 系・50000 系について今回はフォーカスを当ててレポートしていこうと思う。

注:本記事におけるデータは 2011 年 9 月中旬現在での情報です。更新(修繕)工事などによる編成の変化や、転属などがある可能性があります。ご了承ください。



まずは…各形式それぞれの概要についてまとめてみた。

10000 系(10030 系・10080 系を含む)概要

《基本スペック》

編成	2・4・6・8・10 両編成 (8・10 両編成車は東上線運用のみ)
最高速度	(設計)110km/h (営業)100km/h
起動加速度	2.5km/h/s
減速度	(常用最大)3.7km/h/s (非常)4.5h/m/s
主電動機	直流複巻電動機 (140kW) (ただし 10080 系は三相交流誘導電動機)
制御装置	電動カム軸式バーニア界磁チョッパ制御 (ただし 10080 系は IGBT-VVVF インバータ制御)

10000系(50番台[10050系]を含む)



10000系(12101編成+18101編成)
鶴瀬にて



10000系50番台(11658編成) 北千住にて
10000系との若干の形状の違いから
「10050系」とも呼ばれる。

10000系は1983年より東上線内で運用されている西武有楽町線直通用9000系をベースとして製造された車両。当初東上線内での限定運用であったが、製造開始翌年の1984年3月より伊勢崎線・日光線での運用が開始された。ベースとなった9000系と同じく20m級4ドアを採用しているが、前面は正面中央に貫通扉を設けた左右対称のデザインとされた（この点は9000系と異なる）。主電動機・制御装置については前述の通りで、ブレーキ装置は回生ブレーキ併用電気指令式空気ブレーキを搭載。これに加え、日光線新栃木以北の勾配区間用の抑速ブレーキも備えているため、マスコン(主観制御器)のハンドルやノッチ数は6050(6000)系と同様である。定員は先頭車両が150名、その他の中間車両が170名となっている。なお、前述では記載していないが10000系の4両編成は製造されていない。

また1992年以降に製造された10000系には客室内に車いすスペースが設けられ、冷房装置の変更や自動連結・開放運転に備えた電気連結器付き密着連結器の導入なども施された。更に、1995年落成の11267編成は東武初のシングルアームを採用するなどより一層のリニューアルが進められた。また車両番号下2桁が50番台であることから10050系と呼称されることもある(正式には10000系50番台)。



10000系更新後フルカラーLED方向幕
[区間急行 | 館林]



同じく 10000 系(11605 編成) 梅島にて
伊勢崎線用の 6 両編成車は全編成更新済。
(下記の「更新(修繕)工事について」でも記述)



こちらは未更新型 10000 系 谷塚にて
(12204 編成/東武日光寄り 2 両は 11204 編成)
更新済車両との比較のために…
スカートの有無・方向幕の LED 化等が大きな変更点。

10030 系



10030 系(11446 編成) 鶴瀬にて
10000 系とは前面構造にも
目に見える差異が見られる。

1988 年伊勢崎線・日光線に登場した 10000 系のマイナーチェンジ車。伊勢崎線の館林、日光線の新栃木以北で運用されていた 3000 系列の置き換えとして製造された。車体構造を 10000 系のコルゲート車体からビードプレス車体へと変更し、凹凸のないスマートな車体になった。補助電源装置として SIV(静止形インバータ)を搭載。2・4・6・10 両編成が製造され伊勢崎・日光・東上の各線で運用されている。定員は先頭車両が 142 名、その他の中間車両が 152 名となっている。



こちらは伊勢崎線を走る6両編成の10030系
(11631編成) 梅島にて



10030系更新車(11635編成) 業平橋にて
10000系同様更新工事が10030系においても
行われている。



10030系の側面方向幕

上:伊勢崎線(日光線) [区間急行 | 新栃木]
下:東上線 [通勤急行 | 小川町⇄池袋]

10080系

前述の10030系と同時に登場した。1編成のみ在籍という超レアな形式(編成と言ってもいいかもしれない)。東武で史上初 GTO サイリスタ素子によるVVVFインバータ制御(日立製作所製)を採用した。10000系・10030系との併結運転を考慮して走行性能はこの2形式と揃えられている。後にインバータの動作不良により休車の後現在50000系列で採用されているIGBT素子によるVVVFインバータ制御に交換され再び定期運用に復帰。現在でも上記の2形式に加え後述の30000系との併結運転を行っている。定員は10030系と同様先頭車両が142名、その他の中間車両が152名となっている。

Sorry, There is no data...(写真はございません…)

《更新(修繕)工事について》

製造から 20 年以上経ったことから 2007 年の 11601 編成を皮切りに 10000 系・10030 系の更新工事が順次行われている。2011 年度までに 20 両が修繕される予定である。

既に 10000 系については南栗橋管区春日部支所所属の 6 両編成車がすべて更新済となっている。また、10030 系では 11635 編成・11636 編成の 2 編成が修繕工事を済ませている(後記の「各系列編成表」を参照のこと)。

30000 系概要

《基本スペック》

編成	6・4 両編成
最高速度	(設計)110km/h (営業)東武線:100km/h 半蔵門線:80km/h 田園都市線:110km/h
起動加速度	3.3km/h/s (ただし 10000 系列との併結運転時は 2.5km/h/s)
減速度	(常用最大)3.5km/h/s (非常)4.5h/m/s
主電動機	かご型三相誘導電動機(190kW)
制御装置	IGBT-VVVF インバータ制御
駆動装置	TD 継手式中実軸平行カルダン駆動方式 ギア比 99:14(7.07)
台車	モノリンク式ボルスタレス式台車 (電動車)TRS-95M (付随車)TRS-95T

《形式詳細》

30000 系	
	東京メトロ半蔵門線との直通運転に対応した設計に作られた車両。6 両編成 90 両 4 両編成 60 両(4 両・6 両それぞれ 15 編成ずつ)が製造されている。10 両固定編成として製造に踏み切れなかった理由として、



30000系(34109編成+36109編成) 梅島にて
今や田園都市線への乗り入れ運転の主役の座を
50050系に奪われてしまっている30000系…
現在では乗り入れ対応編成は2編成のみ。



今年(2011年)6月から東上線でもこの顔が
見られるようになった。

30000系(34101編成+36101編成)

上2つの編成共に6+4の10両編成で
10両固定編成ではない。

伊勢崎線浅草～業平橋間など10両編成の入線に対応していない駅があることと、西新井工場・杉戸工場(現在はどちらも廃止)への検査入場の際に入線不可能だったことが挙げられている。制御装置は日立製作所製のVFI-HR1420Bを使用。これは東武初のIGBT素子によるVVVFインバータ制御の採用となった。更にマスコンを両手操作のT字型ワンハンドルも東武初の試みである。前面・側面の方向幕はLEDを使用し、側面の方向幕は従来の方向幕の約2倍の横幅である。半蔵門線直通列車として東武線内を運行する際には行先の右側に『半蔵門線直通』と表示される。定員は先頭車が139人、その他の中間車が153人となっている。



30000系3色LED方向幕

(区間準急 | 東武動物公園)

従来のLED方向幕と比べて横幅がかなり広いため、

このような長い駅名であっても
左右共に端を潰して表示せずとも
しっかり表示することができる。

50000系(50050系・50070系・50090系を含む)概要

《基本スペック》

編成	10両編成
最高速度	(設計)120km/h

	(営業)東武線:100km/h 半蔵門・有楽町・副都心線:80km/h 田園都市線:110km/h
起動加速度	3.3km/h/s
減速度	(常用最大)3.5km/h/s (非常)4.5h/m/s
主電動機	かご型三相誘導電動機(165kW)
制御装置	IGBT-VVVF インバータ制御
駆動装置	TD 継手式平行カルダン駆動方式(CFRP 製) ギア比 98:15(6.53)
台車	モノリンク式ボルスタレス式台車 (電動車)SS-167 (付随車)SS-067

《形式詳細》

50000 系



50000 系(51008 編成) 鶴瀬にて



東上線用として投入され、従来の車両よりもバリアフリー化や省エネ化に特化した構造にされた。東武東上線内での限定運用に限られているので搭載する保安装置は東武形 ATS のみを装備している。トップナンバー編成の 51001 編成は貫通扉が正面にない正面非貫通式を採用しているが、その後落成された 51002 編成からは運転室助手席側に非常用貫通扉を設置。マスコン(主幹制御器)は東武東上線所属の車両として初めて T 字型ワンハンドル式を採用、更に東上線初のシングルアーム式パンタグラフを採用している。前面・側面の方向幕は共に 3 色 LED である。また、室内内装の面で前期車と後期車で若干の相違がある。後期車は 50050 系(後期車)・50090 系落成の後製造が開始されたことからこれらの形式で採用された内装の仕様を取り入れている。



50000 系 3 色 LED 方向幕 (急行 | 池袋)

50000系(51001編成) 鶴瀬にて
同じ50000系であるがこのトップナンバー編成のみ
は前面に貫通扉が備えられておらず、
ライト位置も他の編成と異なっている。



50000系ロングシート(青)

1・2次車は座席モケットが淡い紫色であったが、
3・4次車からは写真の「キュービックブルー」の配色
が採用された。

50050系



50050系(51067編成) 梅島にて



伊勢崎・日光線用、更には東京メトロ半蔵門線・東
急田園都市線の乗り入れ列車用として投入され、18
編成 180両が在籍している。直通運転対応のため東
武形ATSのほかに東京メトロ・東急形ATCの機能を
持ち、これらの機能を集約したATC/S装置が車両に
搭載されている。直通運転対応として前面に運行番号
表示器も設置された。また、半蔵門線・田園都市線の
車両規格に合わせるため車体幅を50000系の
2800mmから2770mmに変更した。また50061編
成以降の車両では後述50090系で採用されている内
装や走行機器類を採用している。一部編成を除くほと
んどの編成は30000系(半蔵門線・田園都市線対応車)
を置き換えている。

50050系3色LED方向幕 (急行 | 久喜)

50000系の仕様をそのまま踏襲した形となった。

50070 系



50070 系(51074 編成) 永田町にて

東上線・東京メトロ副都心線・有楽町線用の系列。
現在 10 編成 50 両が在籍中で、外観や放送設備などの仕様については前述の 50050 系と同様であるが、前面・側面の方向幕が 3 色 LED からフルカラーLED への変更や、副都心・有楽町線内での ATO 運転に対応するために ATO が装備されるなど随所で変更が加えられた車両となっている。



50070 系フルカラーLED 方向幕
(各停 | 和光市 | 9 号車)



車内車いすスペース

50090 系



50090系(51096編成) 志木にて



こちらは51091編成。トップナンバー編成
鶴瀬にて



50090系のマルチシート

撮影時は日中の急行運用についていたため
このようにロングシート仕様になっている。



優先席シート

一般席同様手すりについては、
モケットの色はライトグリーン。回転もしない。

2008年6月14日のダイヤ改正によって導入された座席指定制列車「TJライナー」用として投入された。現在6編成60両が在籍している。基本的には50000系から脈々と踏襲され続けてきた仕様に準じているが、車体には従来のシャイニーオレンジの色の他に東上線イメージカラーであるロイヤルブルーの帯に『TOJO LINE』と斜字体で刻まれていて他の種別との差別化やスピード感を象徴している。前面・側面の方向幕は50070系同様フルカラーLEDを採用。また、この形式を語る上で一番大きなポイントとなるのは関東の鉄道会社では初めてクロスシートとロングシートとに変換できるマルチシートの装備であろう。座席掛け幅は455mmとなっていてクロスシート使用時にペダルを踏み込むことで自由に転換できる転換クロスシートとなっている(ただしロングシート使用時にはペダルが収納される)。なお、この系列は「TJライナー」以外の運用にも就くことがあるが、一部列車を除いてはロングシートでの運転を行っている。



～編成表の見方～

←浅草方面

館林・久喜・伊勢崎/南栗橋・東武日光方面→

←池袋方面

ふじみ野・森林公園・寄居方面→

組成	各系列がどのような車両の配置で編成されているかを記載しています。										X
搭載機器	各車両ごとに搭載されている走行機器を記載しています。										所属
車両番号	51001	52001	53001	54001	55001	56001	57001	58001	59001	50001	森林
(例)	51002	52002	53002	54002	55002	56002	57002	58002	59002	50002	
	↑										
	各系列の各車両に割り振られている番号(=車両番号)を順番に記載しています。										
	各編成がどの車両基地に在籍しているかを記載しています。→→										

～編成表内使用略記 脚注～

搭載機器	チヨ	電動カム軸式バーニア界磁チヨツパ制御
	V	IGBT-VVVF インバータ制御
	M	主電動機
	S	インバータ式補助電源装置
	CP	空気圧縮機
所属	栗橋	南栗橋車両管区南栗橋本区
	春日部	南栗橋車両管区春日部支所

	森林	森林公園研修区
その他	※	備考
		各編成の半固定併結を表す記号



・10000系(2・4・6・8・10両編成車)

組成	Mc	Tc3	
搭載機器	子ヨ	M CP	所属
車両番号	11203	12203	春日部
	11204	12204	

組成	Tc1	M1	M2	T3	M3	Tc2	
搭載機器		子ヨ	M CP	M CP	子ヨ		所属
車両番号	11601	12601	13601	14601	15601	16601	春日部
	11602	12602	13602	14602	15602	16602	
	11603	12603	13603	14603	15603	16603	
	11604	12604	13604	14604	15604	16604	
	11605	12605	13605	14605	15605	16605	
	11606	12606	13606	14606	15606	16606	
	11607	12607	13607	14607	15607	16607	

	11608	12608	13608	14608	15608	16608	
	11609	12609	13609	14609	15609	16609	
«更新»	全編成修繕工事済み。						

組成	Tc1	M1	M2	T1	T2	M1'	M2'	Tc2	Mc	Tc3	
搭載機器		チヨ	M CP			チヨ	M CP				所属
車両番号	11801	12801	13801	14801	15801	16801	17801	18801	11201	12201	森林
	11802	12802	13802	14802	15802	16802	17802	18802	11202	12202	

組成	Tc1	M1	M2	T1	M4	TM1	T2	M1'	M2'	Tc2	
搭載機器		チヨ	M CP					チヨ	M CP		所属
車両番号	11003	12003	13003	14003	15003	16003	17003	18003	19003	10003	森林
	11004	12004	13004	15004	15004	16004	17004	18004	19004	10004	
	11005	12005	13005	14005	15005	16005	17005	18005	19005	10005	
	11006	12006	13006	14006	15006	16006	17006	18006	19006	10006	

・ 10030 系(2・4・6・10 両編成)

組成	Mc	Tc3	
搭載機器	チヨ	S CP	所属
車両番号	11251	12251	春日部
	11252	12252	
	11253	12253	
	11254	12254	
	11255	12255	
	11256	12256	
	11257	12257	
	11258	12258	
	11259	12259	
	11260	12260	
	11261	12261	
	11262	12262	
	11263	12263	
	11264	12264	

	11265	12265	
	11266	12266	
※	11267	12267	
	11268	12268	
《備考》	11267 編成モハ 11267 にはシングルアームパン タグラフを搭載。		

組成	Tc1	M1	M2	Tc2	
搭載機器		チヨ	S CP		所属
車両番号	11431	12431	13431	14431	春日部
	11432	12432	13432	14432	
	11433	12433	13433	14433	
	11434	12434	13434	14434	
	11435	12435	13435	14435	
	11436	12436	13436	14436	
	11437	12437	13437	14437	
	11438	12438	13438	14438	森林
	11439	12439	13439	14439	
	11440	12440	13440	14440	
	11441	12441	13441	14441	
	11442	12442	13442	14442	
	11443	12443	13443	14443	
	11444	12444	13444	14444	
	11445	12445	13445	14445	
	11446	12446	13446	14446	
	11447	12447	13447	14447	
	11448	12448	13448	14448	
	11451	12451	13451	14451	
	11452	12452	13452	14452	
	11453	12453	13453	14453	
	11454	12454	13454	14454	
	11455	12455	13455	14455	

	11456	12456	13456	14456	
	11457	12457	13457	14457	春日部
	11458	12458	13458	14458	
	11459	12459	13459	14459	
	11460	12460	13460	14460	森林
	11461	12461	13461	14461	

組成	Tc1	M1	M2	T1	M4	TM1	
搭載機器		チヨ	S CP	S CP	チヨ		所属
車両番号	11631	12631	13631	14631	15631	16631	春日部
	11632	12632	13632	14632	15632	16632	
	11633	12633	13633	14633	15633	16633	
	11634	12634	13634	14634	15634	16634	森林
※	11635	12635	13635	14635	15635	16635	春日部
※	11636	12636	13636	14636	15636	16636	
	11637	12637	13637	14637	15637	16637	森林
	11638	12638	13638	14638	15638	16638	
	11639	12639	13639	14639	15639	16639	
	11640	12640	13640	14640	15640	16640	
	11641	12641	13641	14641	15641	16641	
	11642	12642	13642	14642	15642	16642	
	11643	12643	13643	14643	15643	16643	
	11644	12644	13644	14644	15644	16644	
	11651	12651	13651	14651	15651	16651	春日部
	11652	12652	13652	14652	15652	16652	森林
	11653	12653	13653	14653	15653	16653	
	11654	12654	13654	14654	15654	16654	
	11655	12655	13655	14655	15655	16655	
	11656	12656	13656	14656	15656	16656	
	11657	12657	13657	14657	15657	16657	春日部
	11658	12658	13658	14658	15658	16658	
	11659	12659	13659	14659	15659	16659	
	11660	12660	13660	14660	15660	16660	
	11661	12661	13661	14661	15661	16661	森林

	11662	12662	13662	14662	15662	16662	
	11663	12663	13663	14663	15663	16663	春日部
	11664	12664	13664	14664	15664	16664	
	11665	12665	13665	14665	15665	16665	
	11666	12666	13666	14666	15666	16666	森林
	11667	12667	13667	14667	15667	16667	
	11668	12668	13668	14668	15668	16668	春日部
《備考》	11635 編成・11636 編成は修繕工事済						

組成	Tc1	M1	M2	T1	M4	TM1	T2	M1'	M2'	Tc2	
搭載機器		子ヨ	S CP		子ヨ	S CP		子ヨ	S CP		所属
車両番号	11031	12031	13031	14031	15031	16031	17031	18031	19031	10031	森林
	11032	12032	13032	14032	15032	16032	17032	18032	19032	10032	

・10080 系

組成	Tc1	M1	M2	Tc2	
搭載機器		M	S CP		所属
車両番号	11480	12480	13480	14480	春日部



組成	Tc1	M1	M2	T1	M3	Tc2	Tc1	MA	MB	Tc2	
搭載機器		M CP	M S	S	M CP			M CP	M S		所属

車両番号	31601	32601	33601	34601	35601	36601	31401	32401	33401	34401	森林
	31602	32602	33602	34602	35602	36602	31402	32402	33402	34402	春日部
	31603	32603	33603	34603	35603	36603	31403	32403	33403	34403	
	31604	32604	33604	34604	35604	36604	31404	32404	33404	34404	
	31605	32605	33605	34605	35605	36605	31405	32405	33405	34405	栗橋
	31606	32606	33606	34606	35606	36606	31406	32406	33406	34406	
	31607	32607	33607	34607	35607	36607	31407	32407	33407	34407	春日部
	31608	32608	33608	34608	35608	36608	31408	32408	33408	34408	
	31609	32609	33609	34609	35609	36609	31409	32409	33409	34409	栗橋
	31610	32610	33610	34610	35610	36610	31410	32410	33410	34410	春日部
	31611	32611	33611	34611	35611	36611	31411	32411	33411	34411	
	31612	32612	33612	34612	35612	36612	31412	32412	33412	34412	
	31613	32613	33613	34613	35613	36613	31413	32413	33412	34412	
	31614	32614	33614	34614	35614	36614	31414	32414	33414	34414	
	31615	32615	33615	34615	35615	36615	31415	32415	33415	35415	
《備考》	36601 編成・31606 編成+31406 編成・31609+31409 編成は半固定 10 両編成車。 (6 両+4 両) 南栗橋管区栗橋支所所属の 2 編成のみが半蔵門線・東急田園都市線乗り入れ対応車。										



・ 50000 系

組成	Tc1	M1	M2	T1	M3	T2	T3	M1'	M2'	Tc2	
搭載機器		M	S CP		M			M	S CP		所属
車両番号	51001	52001	53001	54001	55001	56001	57001	58001	59001	50001	森林

	51002	52002	53002	54002	55002	56002	57002	58002	59002	50002	
	51003	52003	53003	54003	55003	56003	57003	58003	59003	50003	
	51004	52004	53004	54004	55004	56004	57004	58004	59004	50004	
	51005	52005	53005	54005	55005	56005	57005	58005	59005	50005	
	51006	52006	53006	54006	55006	56006	57006	58006	59006	50006	
	51007	52007	53007	54007	55007	56007	57007	58007	59007	50007	
	51008	52008	53008	54008	55008	56008	57008	58008	59008	50008	
	51009	52009	53009	54009	55009	56009	57009	58009	59009	50009	

・ 50050 系

組成	Tc1	M1	M2	T1	M3	T2	T3	M1'	M2'	Tc2	
搭載機器		M	S CP		M			M	S CP		所属
車両番号	51051	52051	53051	54051	55051	56051	57051	58051	59051	50051	栗橋
	51052	52052	53052	54052	55052	56052	57052	58052	59052	50052	
	51053	52053	53053	54053	55053	56053	57053	58053	59053	50053	
	51054	52054	53054	54054	55054	56054	57054	58054	59054	50054	
	51055	52055	53055	54055	55055	56055	57055	58055	59055	50055	
	51056	52056	53056	54056	55056	56056	57056	58056	59056	50056	栗橋
	51057	52057	53057	54057	55057	56057	57057	58057	59057	50057	
	51058	52058	53058	54058	55058	56058	57058	58058	59058	50058	
	51059	52059	53059	54059	55059	56059	57059	58059	59059	50059	
	51060	52060	53060	54060	55060	56060	57060	58060	59060	50060	
	51061	52061	53061	54061	55061	56061	57061	58061	59061	50061	
	51062	52062	53062	54062	55062	56062	57062	58062	59062	50062	
	51063	52063	53063	54063	55063	56063	57063	58063	59063	50063	
	51064	52064	53064	54064	55064	56064	57064	58064	59064	50064	
	51065	52065	53065	54065	55065	56065	57065	58065	59065	50065	
	51066	52066	53066	54066	55066	56066	57066	58066	59066	50066	
	51067	52067	53067	54067	55067	56067	57067	58067	59067	50067	
	51068	52068	53068	54068	55068	56068	57068	58068	59068	50068	

・ 50070 系

組成	Tc1	M1	M2	T1	M3	T2	T3	M1'	M2'	Tc2	
搭載機器		M	S CP		M			M	S CP		所属

車両番号	51071	52071	53071	54071	55071	56071	57071	58071	59071	50071	森林
	51072	52072	53072	54072	55072	56072	57072	58072	59072	50072	
	51073	52073	53073	54073	55073	56073	57073	58073	59073	50083	
	51074	52074	53074	54074	55074	56074	57074	58074	59074	50074	
	51075	52075	53075	54075	55075	56075	57075	58075	59075	50075	

・ 50090 系

組成	Tc1	M1	M2	T1	M3	T2	T3	M1'	M2'	Tc2	
搭載機器		∨	S CP		∨			∨	S CP		所属
車両番号	51091	52091	53091	54091	55091	56091	57091	58091	59091	50091	森林
	51092	52092	53092	54092	55092	56092	57092	58092	59092	50092	
	51093	52093	53093	54093	55093	56093	57093	58093	59093	50093	
	51094	52094	53094	54094	55094	56094	57094	58094	59094	50094	
	51095	52095	53095	54095	55095	56095	57095	58095	59095	50095	
	51096	52096	53096	54096	55096	56096	57096	58096	59096	50096	
	51097	52097	53097	54097	55097	56097	57097	58097	59097	50097	
	51098	52098	53098	54098	55098	56098	57098	58098	59098	50098	
	51099	52099	53099	54099	55099	56099	57099	58099	59099	50099	



今回本誌で取り上げた 10000 系列は就役から 28 年、30000 系は 14 年、一番新しい 50000 系列でも 2005 年就役なのでもう登場から 6 年が経っている。

今現在「私鉄の(国鉄)103 系」と呼ばれる 8000 系も東上線内においては

2012年度のATS化によって次々に新型車両への置き換えが着々と進んでいる状況…。やがてどのような形であれ今回紹介した車両も表舞台から姿を消したりすることが起こるわけである。

現在、東急東横線の渋谷～代官山間の地下化工事が進んでおり、完成すると東京メトロ有楽町線・副都心線を通り西武池袋線・東武東上線が途中で途絶えることなく一続きに繋がる。これに伴って現存の東武伊勢崎線(日光線)・東急田園都市線の相互乗り入れ運転に続き、東急東横線・東京メトロ・東武東上線(東京メトロとは既に相互乗り入れ運転は実施中)の相互乗り入れ運転が実現する。

よって東上線の車両が東横線に乗り入れ運転するのも夢ではなくなるかもしれないのだ。こうして今回紹介した車両が他社線という新たな舞台にまで進出して活躍してくれることもある。

長年活躍してきた車両が退くことも注目すべき点だが、こうしてホームグラウンドではない場所で活躍している、あるいはこれから活躍する車両に目を向けるのも重要だと思う。

だからこそ今後の動向には是非とも注意深く目を向けたいと思う。

拙い文章でしたが、最後までご覧いただきましてありがとうございました。

【参考文献】

ウィキペディア フリー百科事典 (<http://ja.wikipedia.org/wiki/>)

東武鉄道 ホームページ (<http://www.tobu.co.jp/>)

Kasukabe 総合車両センター (<http://www.krfj.net/kasukabe/>)

鉄道ファン 2010年9月号